

公立大学法人島根県立大学の平成26年度に係る業務実績に関する評価のポイント

1. 5段階評価を行う項目

(1) 特に顕著な成果が見られた事項…「評点5」の項目

項 目	概 要
① 学生募集を中心とした情報発信 (No. 87-4、戦略的な広報の実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビCM、新聞雑誌広告、駅看板の設置に新たに取り組むなど、積極的な情報発信を行った。 ・一般入試前期の志願倍率において、出雲キャンパスは9.3倍（前年度6.2倍）、浜田キャンパスは8.2倍（前年度6.9倍）となり、全国の国公立大学でも上位となる高志願倍率を達成した。
② 大学を支援する組織との意見交換や交流事業の実施等を通じた地域との連携強化 (No. 88)	<ul style="list-style-type: none"> ・「しまね地域共生センター」を新たに設置し、松江キャンパスにおける地域貢献窓口の一元化を実現した。 ・地（知）の拠点整備事業（COC）を進めるための運営委員会などの開催回数を増やすことにより、関係機関との連携をこれまで以上に強化し、新たに16件の研究事業実施が決まった。
③ 同窓会事務・事業の広報強化 (No. 88-4、大学支援組織との連携強化)	<ul style="list-style-type: none"> ・松江キャンパスにおいて、新たに学内に同窓会拠点を設置し、学生と同窓会との交流を促進した。 ・同窓会による卒業生・在学生・教職員交流市内ツアーを実施するなど、連携を一層深めた。

(2) 平成25年度実績に係る今後の取組が期待される事項

評点3以下の項目（意図した実績が達成されなかった事項）

項 目	概 要
① 情報セキュリティポリシー及び情報格付けに基づいた文書管理 (No. 92-2、安全管理対策の実施)	情報セキュリティポリシーをより実効性のあるものに改訂し、研修を通じて教職員・学生に周知を図った。

(3) 中期目標各項目別の平均値

<中期目標各項目別の状況>…年度計画各項目を5段階で評定し、その平均値で評価

中期目標の大項目	評点平均値				評 定
	大学		事務局		
①社会情勢の変化に的確に対応した大学づくり	4.00	A	4.00	A	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる。
②自主的、自律的な組織・運営体制の確立	4.00	A	4.00	A	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる。
③評価制度の構築及び情報公開の推進	4.15	A	4.15	A	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる。
④その他業務運営に関する重要項目	4.06	A	4.06	A	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる。

2. 5段階評価を行わず特筆すべき点又は遅れている点を示す項目

大学の教育研究等の質の向上に対する評価の概要

大学の3つの基本的な目標（①学ぶ意欲を大切にし、高めていく大学、②地域に根ざし、地域に貢献する大学、③北東アジアの知的共同体の拠点として世界と地域をつなぐ大学）について評価を実施

(1) 特筆すべき点（注目される点）

項目	計画の進捗状況及び成果
学ぶ意欲を大切にし、高めていく大学	<p>◇TOEFL-ITP500点以上を2名、TOEIC730点以上を1名、卒業研究を英語で執筆した学生を8名輩出した。(合計11名、目標は10名)(浜田キャンパス)</p> <p>◇インターンシップにおいて、昨年度の6倍以上となる67名の参加があった。(浜田キャンパス)</p> <p>◇メディアセンターにおいて、リクエスト一覧と入荷状況をリアルタイムで表示するなどの取り組みを行った結果、図書のリクエスト総数が対前年度比25%増化した。(浜田キャンパス)</p> <p>◇学生の独創的・魅力的なプロジェクトに対し費用を補助し、学生主体の産学協同開発による怪談スイーツ「ほういちの耳まんぢう」の商品化を実現した。(松江キャンパス)(No.41-1)</p>
地域に根ざし、地域に貢献する大学	<p>◇県立大学独自の制度である「島根地域マイスター」認定制度の構築や、島根の地域課題を学ぶ「しまね地域共生学入門」の開講準備を進めるなど、地域志向型のカリキュラム構築に努めた。(No.46)</p> <p>◇「しまね地域共生センター」を開設し、地域志向教育・研究機能の向上や地域貢献窓口の一元化を図るとともに、島根県と連携した「しまね和牛の食品開発」、「島根米つや姫の食品開発」や民間企業と連携した「西条柿の食品開発」を実施するなど、地域との連携を推進した。(松江キャンパス)(No.48-3)</p> <p>◇助産師等を対象にした超音波診断技術や新生児蘇生法のシミュレーション研修を新たに設けるなど、公開講座を8講座開講し、延べ134名が受講した。(出雲キャンパス)</p> <p>◇教員の地域貢献活動数は、目標の400件に対し、前年度と比べ115件の増となる747件の実績があり、積極的な地域貢献を行った。(全キャンパス)</p>
北東アジアの知的共同体の拠点として世界と地域をつなぐ大学	<p>◇帰国した留学生のネットワークを活用し、タタールスタン科学アカデミー研究所と学術交流協定の締結に至った。(浜田キャンパス)(No.50-8)</p> <p>◇大学として初めて台湾の大学(国立台中科技大学)と交流協定を締結し、幅広い交流先確保に取り組んだ。(全学)</p> <p>◇交流協定を締結している中国東北師範大学東亜文明中心や蔚山大学校と共同シンポジウムを開催するなど、研究交流の発展に努めた。(浜田キャンパス)(No.60)</p> <p>◇中国の交流先からは長年受入のみを行っていたが、吉林大学に対し、1名の学生を新たに派遣した。(浜田キャンパス)(No.62-3)</p> <p>◇「国際交流センター」を開設し、全キャンパスの国際交流事業の支援体制を整えた。(全学)(No.65)</p>

(2) 遅れている点 (課題がある点)

項 目	概 要
全学センターに所属する教員の情報交換や交流を促進する機会の確保 (全学) (No. 30-2)	7つある全学組織のうち、FDセンター及び保健管理センターでは、情報交換等の機会を設定することができなかった。 ※FD：大学教員の教育能力を高めるための研修等の取り組み
『北東アジア学創成シリーズ』第3、4巻の刊行及び第5巻の執筆着手 (浜田キャンパス) (No. 47-2)	進捗状況は、以下のとおり ・第3巻：27年12月脱稿、27年度下半期刊行予定 ・第4巻：28年度から29年度の間期刊行予定 ・第5巻：執筆未着手

(3) 平成25年度実績に係る今後の取組が期待される事項

項 目	概 要
① 図書の学外貸出の促進 (目標20%増化)	以下の取り組みにより、昨年度同時期の35%増となった。 ・公開講座や市内広報スタンドを利用し、リーフレットやイベント案内を配布・設置 ・浜田市中央図書館において、大学蔵書をPR展示
② 『北東アジア創成シリーズ』第2巻の刊行、3、4巻の執筆着手	進捗状況は、以下のとおり ・第2巻：27年3月脱稿、27年度上半期刊行予定 ・第3巻：27年12月脱稿、27年度下半期刊行予定 ・第4巻：28年度から29年度の間期刊行予定
③ 海外英語研修 (オーストラリア短期語学研修) の同一人の複数回参加	・海外英語研修Ⅱに参加するためにはⅠの修了を前提としており、Ⅰの修了者にⅡの履修を促した。 ・海外で学ぶ機会をより多く確保するため、異文化理解研修及び海外企業研修への参加も促した。